



Title	井元先生へ、心からの感謝
Author(s)	渡辺, 貴規子
Citation	Gallia. 2026, 65, p. 113-114
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104490
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

井元先生へ、心からの感謝

渡辺 貴規子

私が井元秀剛先生に初めてお目にかかったのは、大阪大学に着任する数か月前、2020年1月上旬のことでした。阪大のフランス語の先生方で開かれる新年会に、着任が決まっていた私も、ご厚意で呼んでいただいたのです。高名なフランス語学者としての井元先生のお名前はもちろん存じ上げており、ご挨拶の際、とても緊張したことを思い出します。しかし先生はとても朗らかに、あたたかく接してくださり、阪大の学生やフランス語の授業について教えてくださいましたので、不安でいっぱいだった心も和らぎ、とても安心いたしました。

その数か月後、コロナ禍により、大学教員にとって嵐のような日々がやってくることをその時誰が予測できたでしょう。4月の着任早々、私は必死にもがく日々を過ごすことになりました。対面授業が全くできなくなってしまった中、井元先生は、PCや機械にお強いこともあって、授業アプリやZoomの使い方、ご自分が実践されている授業の方法などを教えてくださいました。

しかし何にも増して心強かったのは、先生が「大丈夫だよ!」と励ますように、たびたびお声をかけてくださったことです。当時、新任教員の私には、数えきれないくらいの心配事があり、体力的にも辛い日々でした。初めてのオンライン授業、かつてなく多量の授業準備、学生たちに会えない不安。でも井元先生にお目にかかったとき、「渡辺先生ちゃんと授業できているよ、言文棟の廊下まで、研究室から一生懸命Zoomで授業してる声響いてるから大丈夫だよ!」などと明るく言っていただくと、大先生に見守っていただいて嬉しいやら、でも「廊下にまで響いてるんや...」と恥ずかしいやら、複雑だけれどとても元気をいただき、私も明るい気持ちになりました。

あれから5年あまり、フランス語部会の一員として、井元先生のすぐ近くで、様々なお仕事を一緒にさせていただけたこと、私は本当に幸せに思います。先生の的確なご判断や迅速なお仕事を間近で拝見し、多くを学ばせていただいたのはもちろんのこと、井元先生のお言葉や態度は、私のような若輩者に対しても常に率直で、思いやりがあり、たくさん励ましていただきました。私が教務委員や部会主任などの責任あるお役目を初めて経験した年度も、幸運にも井元先生が委員長やオブザーバーなど、もっと上のお立場で同じ会議に出席されており、会議の前後にお声がけくださったり、大会議室で小さくなっている私の近くに座ってくださったりしました。

その井元先生がもうご退職でいらっしゃるなんて、以前から分かっていたことですが、大変寂しく、信じられない思いであります。毎週木曜日、言文棟のフ

ランス語教員交流室で、フランス語部会の先生方みなでお昼ご飯を食べる時も、いつも輪の中心におられ、お仕事に関するご教示も、他愛のないおしゃべりも、惜しみなくしてくださる井元先生。井元先生が話されると、みんな笑顔になり、その場が明るくなります。今はまだ、先生がご退職された後のフランス語部会を想像できません。しかし、先生がくださった様々なお教え、「大丈夫だよ!」という励ましを、私はこれからもずっと忘れません。井元先生、心から、本当にありがとうございました。退職されてもお元気で、そして必ず、時々フランス語教員交流室に遊びにいらしてください。

(大阪大学准教授)